

HIKAWAMARU 氷川丸

ウォーターラインシリーズ NO.92
日本郵船 氷川丸
JAPANESE PACIFIC OCEAN LINER

KIT NO. WL. E092



イラストレーション・上田毅八郎

WATER LINE SERIES

日本郵船では大正に入ってアメリカ、カナダ両国が1万4千〜2万トン級の大型客船を太平洋航路に就航させたのに対して、太平洋航路の船質の改善を目的に、1万7千トン級の客船三隻と、1万2千トン級の貨客船三隻の建造を計画しました。氷川丸はこの内の1万2千トン級の貨客船として計画され、姉妹船の日枝丸などとともに横浜船渠

で建造されました。氷川丸は始めから荒海として知られるシアトル航路に就航させる事を目的としていた為に船体の安定性と頑丈さを特に重視して設計され、外板などは厚い鉄板をさらにリベット止めするという方法がとられていました。またこの為にエンジンもより強力なものが求められ、当時実用化され始めていたディーゼルエンジンを技師と共にデンマークから取り寄せ搭載していました。こうして昭和5年に完成した氷川丸は昭和16年までの74回にもおよぶ航海で数々のエピソードを生みましたが、昭和16年11月、戦争の激化にともない海軍に徴用され、船内に大幅な改装を受けて

病院船となり、本土と南方諸島の間の危険な航海を続け多くの人々の生命を救いました。その後舞鶴で終戦を迎えた氷川丸は連合軍のスカジャップの管理下におかれ、今度は引揚船として戦地に取り残された人々を日本まで連れ帰るなど、戦中、戦後を通して活躍し続けました。

こうして戦争という大きな時代の波を乗り越えた氷川丸はその後、国内航路への就航を経て再びシアトル航路に復帰しましたが、運航採算が悪化した為に昭和35年の航海を最後に運航を停止し、昭和36年、海の教室を兼ねたユースホテルとして横浜にオープンし現在に至っています。

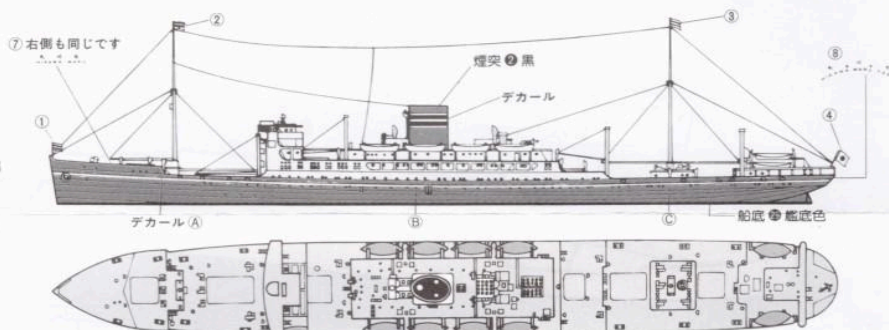
PAINTING

1 日本郵船 シアトル航路（戦前）

船体 上面①白
下面②黒
甲板 ③タン

マスト、デリック及びポートデッキ上面のベンチレーター ④ウッドブラウン

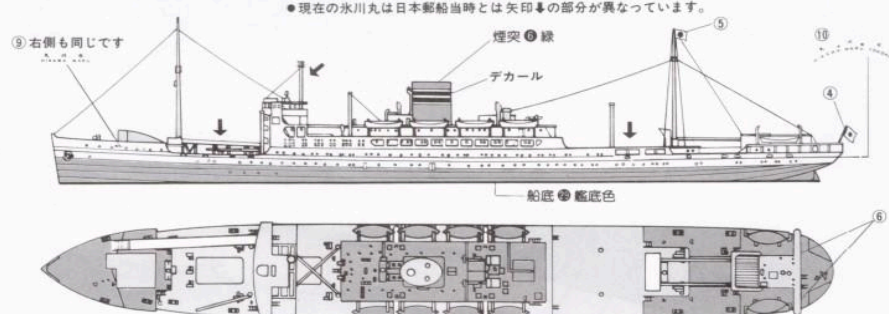
ポート 上面⑤緑+④ミドルストーン
下面⑥つや消し白
いかり ⑦黒鉄色



2 現在、横浜港に保留されて いる氷川丸（1978年）

船体 上面①白
下面⑤緑+④ミドルストーン
甲板 部品番号 B13, 14, 21,
⑧緑+②ミドルストーン
部品番号 A3, 4, 19, B1, 2, 18,
⑨ウッドブラウン

マスト、デリック及びベンチレーター
④ウッドブラウン+⑥セールカラー
ポート上面
⑧緑+②ミドルストーン
下面 ⑥つや消し白



●現在の氷川丸は日本郵船当時とは矢印の部分が異なります。

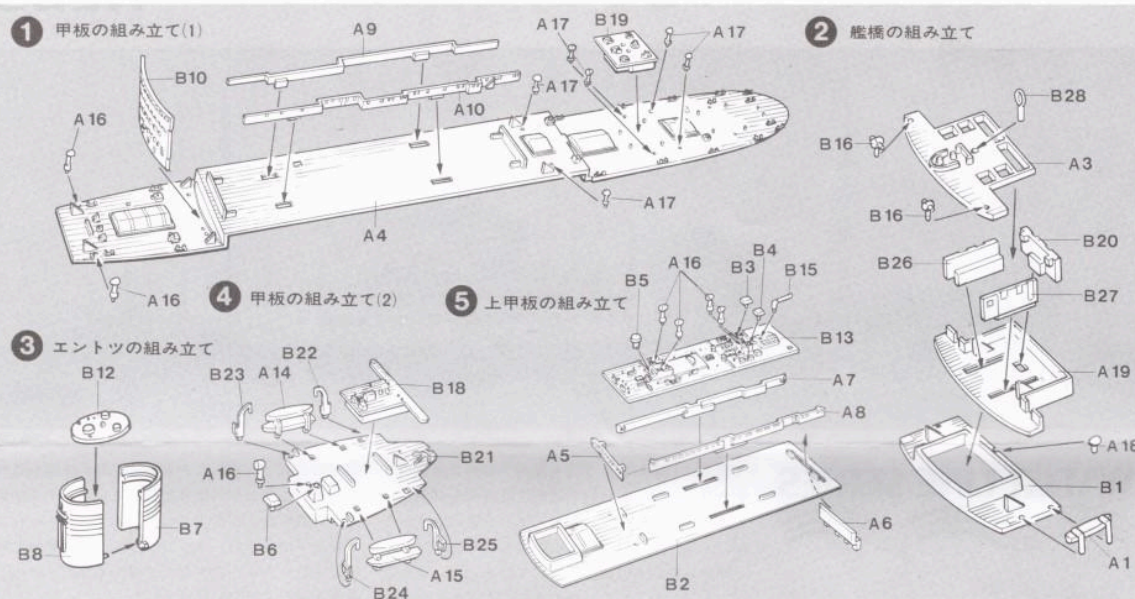
HIKAWAMARU 氷川丸

〈作る前にお読みください。〉

★ランナー（枝）から部品を切りはなす場合必ずニッパーかナイフ等を使って、ていねいに切りはなして下さい。★接着剤は組立てる部品の両方に少しづつ付けて接着して下さい。

家庭用品品質表示法による複製商品表示
 新刊以上の表示 1 切取の字の面がないところは複製し、
 いわづらしない複製品として下さい。
 2 本製品は複製品として下さい。
 3 複製品に似ていない複製品として下さい。
 4 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13

部品を取り出した空箱は幼児が触ったりしないように破り捨てして下さい。



注意 このキットでは部品番号B11のパーツは使用しません。

